

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970101861		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	今泉ケアセンターそよ風		
所在地	栃木県宇都宮市中今泉四丁目22番1号		
自己評価作成日	平成 27年 2月 24日	評価結果市町村受理日	平成 年 月 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成 27年 3月 9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月の個人目標を掲げ、目標達成に向け日々の取り組みを行っています。また、月に1回以上の車での外出・週に1度以上の大きなレク活動を行い、充実した生活が送れるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣に図書館、保育園、商業施設、住宅やアパートが立ち並ぶ閑静で便利な場所にあり、デイサービスと居宅介護支援事業所が併設されている。その人らしさを大切に一人ひとりに合わせた個人目標を掲げるとともに、外出や外食、デイサービスと合同の料理教室やボランティアによる様々なレクリエーション(マジック、昔話、そば打ち、ケーナや津軽三味線の演奏等)など、毎日を無理せず元気に楽しく過ごせるよう支援している。また、清潔の保持を大切に設立時から毎日の入浴を基本としており、状態によってはデイサービスの機械浴も利用している。新たな試みとして今年から市内の同じ法人の事業所と電話による夜間の安否確認を始めており、利用者の安全とともに職員の安心にもつながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念の他に、グループホームの理念を定め、朝礼時に全職員で唱和し、業務に入っている。	法人理念を基にグループホーム独自の理念を掲げ、朝礼時に全職員で唱和し、共有している。コミュニケーションを大切に、月毎に個人目標を掲げるなど、一人ひとりの心身の状態に合わせ、毎日を無理せず元気に楽しく過ごせるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩を通じ、また地域行事へ参加することで、グループホームを認識していただき、多くの方が声をかけて下さる機会が多々ある。	近隣の小学校の防災訓練や盆踊り、図書館の催し物など、地域行事への参加や、保育園児の月毎の訪問、事業所の夏祭り、併設のデイサービスの行事への参加などを通して地域の方との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の活動を通じ、認知症の方々への理解はしていただいているが、支援の方法を伝えられる場を設けたことはない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や日々の様子を報告し、他にどんな取り組みができるか等の意見をいただき、取り組みを強化している。	会議は自治会長、地域包括支援センター職員、民生委員、利用者が参加し2か月に1回開催し、事業所の取り組みや利用状況についての報告や意見交換を行っている。また、地域の行事や勉強会についての情報を得たりしている。近隣の神社を教えてもらい利用者や初詣に行くなどそこでの意見を実際のサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、地域包括支援センターの方が参加して下さり、日々のご様子を伝えていますが、その他に協力関係は築けていない。	地域包括支援センター職員とは運営推進会議への参加のほか、日頃から情報交換をするなど交流があり、事業所職員が講師として地域包括支援センターに出向くなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	建物の2階に事業者があるため、安全上、ユニット出入り口のドアは施錠しているが、ユニット間の行き来は自由に行うことができる。	全体会議や勉強会などで身体拘束について学び実践している。会議に出られなかった職員も内容についてのコメントを書いて提出したり、ミーティングなどを通して職員全員で共有している。常に利用者の立場に立ち、施錠を含め自由な暮らしの支援に努めている。特に言葉による拘束に対しては注意を払っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修やチェックシートを用いてのセルフチェックを行い、防止に努めている。		

今泉ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会がなかったため、活用できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書の内容に沿って、細かく説明し、ご不明な点がないかの確認を必ず行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置・事業所責任者が積極的に声をかけ、意見をいただける機会を作るよう努めている。	電話連絡や面会時だけでなく、毎月請求書に手紙や個人目標の結果・生活の様子・そよ風だよりを添えるなど家族との連絡を密にして、コミュニケーションを図るようにしている。また、家族会も兼ねた親睦会(居酒屋)を開いて職員だけでなく家族同士でも気軽に話せる場を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議・全体会議を通じ、意見を聞く機会を設けている。	毎月の全体会議やグループホーム会議、朝礼などで職員の意見や提案を聞く機会を設けており、グループホーム会議では細かな意見も出されている。また、管理者は個別に話を聞くなど会議では言いづらい意見にも耳を傾け、対応を心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有期雇用制度を設け、契約更改の面談時に条件等の変更ができるよう、話し合いの場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員への研修・栃木県内のそよ風(グループホーム事業所)が集まった形での情報共有ができるような仕組みがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内に於いての交流はあるが、他事業所同業者と関われる機会がない。		

今泉ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これまでの生活状況をご本人・ご家族に確認し、在宅の延長に近い生活が継続できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居に至った経緯を伺い、早期にグループホームでの生活が安定していくよう話を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	いちばん困っていること・グループホームに望むことを確認し、必要に応じて外部も巻き込みながら支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の残存機能を理解し、共に生活ができるような支援内容を随時検討しながら行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段と違った様子が見られた場合には、ご家族にご報告し、対応方法について一緒に考え最善の方法がとれるようこまめに連絡をとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙でのやりとり、そよ風に来訪された時には、十分に面会時間を確保している。こちらから訪問できるような機会は設けることができていない。	家族や親戚、友人が面会に訪れている。入所前からの行きつけの美容室を利用している方や近所の理容室に出かける方もおり、本人が大切にしてきたことや、本人の思い出の場所を訪れる等、馴染みの場所や関係を大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じテーブルでお過ごしの方とのコミュニケーション・グループでのレク活動を大切にし、お互いが支えあいながら生活ができるよう支援している。		

今泉ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時に“いつでもご連絡下さい”の声を必ず行い、実際にご連絡をいただいた場合には、内容に応じて対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居様が希望していることは何かを傾聴、困難な場合にはご家族に確認をし検討している。	本人の希望を良く聞いたり、表情から察するなどして思いや意向を理解しようと努め、本人が納得できるよう対処している。困難な場合は家族の面会時や電話などで確認しながら本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	どんな仕事をしていたのか・どのような生活をしてきたのかをご本人・ご家族にお聞きし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会社書式の“サービス利用依頼書”に心身状況の確認事項があり、得意なことや夢中になれることも含めて把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族・管理者・介護職員にて、現状の課題と今後の対応について話し合い、介護計画の内容を決定している。	介護計画は本人・家族の意向を確認してケアマネジャーと管理者が作成し、グループホーム会議などで職員との話し合いの上で決定している。定期的なモニタリングや見直しの他、状態に変化があった時には随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録管理、気づいたことはアセスメント表や介護計画書にメモ書きし、次回の作成に向け準備をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な支援が行っていきけるよう、適時柔軟な対応をしている。		

今泉ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の生活パターンから抜け出すことがなかなかできず、地域資源を活用するような支援はできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院にて対応の方・往診にて対応の方、個々に主治医を決定し、必要な内容の伝達を適時行いながら、医療機関との関係を構築している。	基本は家族の協力も得て、かかりつけ医に受診している。内科、皮膚科は月1回、歯科は週1回事業所での往診も行っており、入所時に希望を確認している。通院の場合は本人の状態をメモで渡し、受診結果を報告してもらい情報を共有しながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変時には特に、デイサービス看護師との連携を強化している。その他、必要に応じて看護師に相談を行いながら、適時対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居中のご様子や支援内容をお伝えしているが、緊急時に備えた病院との連携は作ることができていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状の話し合いに留まっており、重度化・終末期に備えた準備ができていない。	入居時に重度化した場合や終末期の対応について説明しており、手紙などで常に家族に本人の状態を把握してもらっている。緊急の場合は救急車対応となるが、事業所での対応は難しいと思われる場合であっても、特養など他の施設への入所を希望しない場合は、本人や家族の希望に添えるよう出来る限り事業所での生活の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法については、事務所内にマニュアルを整備し、適切な対応ができるようにしているが、実際には責任者に確認しながらの対応になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や自然災害時のマニュアル整備はできているが、実際の避難方法や連絡体制、地域との協力体制には課題が残る。	消防署立ち会いを含め、年2回の消防訓練を実施している。非常時のマニュアルや連絡網などは事務所に掲示し全職員に周知している。また災害に備え食品や飲料水の備蓄をしている。今年から市内の同じ法人の事業所と電話による夜間の安否確認を始めたが、夜間想定の実践的な訓練には至っていない。	夜間の安否確認など新しい取り組みも始めたが、ホームが2階にあるため職員のみでの避難は困難と思われる。今後実践的な訓練を取り入れること、連絡網に自治会長の登録を要請するなど地域の方の協力を得られるよう関係構築に期待したい。

今泉ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	呼名は名字で、馴れ合いで親しみのありすぎる言葉遣いにならないよう、接遇の徹底をスタッフへ周知し、対応している。	全体会議で接遇に関する勉強会をして全職員で実践している。呼びかけは名字で、プライドを傷つけないよう日頃の言葉遣いには特に注意している。排泄時の誘導や失敗に対しても本人を傷つけないようさりげない支援を心がけている。記録や写真など個人情報の取り扱いも注意、徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決定がスタッフになりがちであり、自己決定に導くことができていない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の生活の他に、散歩・買い物・その他の外出に参加できるかを確認し、できる限り希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、クローゼットから出していただいたり、選ぶことが困難な方には、ご本人と確認をしながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主食・副食の取り分け、配膳・下膳・片づけまでを含め、役割を決めて行っていただいている。	昼・夕食は1階デイサービスの厨房で作ったものを配膳している。お誕生日などの様々な行事食は事業所で手作りし、毎月の料理教室でのおやつ作りや外食などで食を楽しむ工夫をしている。利用者も食器洗いやテーブル拭き等出来ることを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な量の摂取はしているが、一人ひとりの状態に合わせた支援はできていない。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後、必ず口腔ケアを行っている。		

今泉ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツやパットの使用は、極力減らし、時間でトイレ誘導をしている。	一人ひとりの排泄パターンを把握して声かけや時間で誘導し、できる限りトイレでの排泄を支援している。失敗しても周囲に気づかれないようさりげなく誘導し、お湯による清拭を行って清潔を保つように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体を動かす機会を多く持ち、便秘の予防をしている。個別に内服薬での便秘防止は行っているが、十分ではない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴していただけるよう体制を整えており、できる限り就寝時間に近い夕方に入浴していただいている。	清潔の保持を大切に、夕方3～6時の間に毎日入浴できる。各ユニットで浴槽は2つずつあり、状態に応じて1～2人、気の合う方同士で入ったり、入浴剤を使うなど入浴を楽しむ工夫もしている。入浴を拒否していた方が、声かけの工夫等で入浴できるようになったケースもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全居室がカギ付きの個室となっているため、安心して休息をとっていただくことができている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書はファイリング管理し、全スタッフが必ず確認をしている。服薬内容に変更があった場合には、特に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お互いがお互いをフォローし合ったり、デイサービスに馴染みの方がいらっしゃる入居者様はデイサービスへ出向き、気分転換が図れる環境を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎日でも散歩へ行ける機会を設け、月に1度以上は車での外出ができるよう支援している。	普段から近隣の散歩など少しでも外気に触れることを大切にするとともに、春は梅や桜、クリスマスにはイルミネーションなどできるだけドライブや散歩に出かけて季節を楽しめるよう支援している。おにぎりを一緒に作って外で食べたり、利用者の思いの地に行ったり、思い立って計画にない外出をすることもある。	

今泉ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のため、事務所内にてお預かりをしているが、買い物へ出かけた際、ヤクルト屋さん came ときには、自由に使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でのやりとりは、事務所の電話機を使用していただき、対応している。年賀状や手紙をいただく機会はあるが、こちらからの返信ができていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るく、廊下は落ち着いた色遣いになっている。壁紙に季節の風景を取り入れ、季節感を出す等工夫している。	居間、食堂、台所が一つの広々とした空間に仕切りなく配置され、テレビの前にはくつろげるようソファも置かれている。廊下の壁には絵画、利用者の外出時の写真や折り紙などの作品が飾られ、それぞれの個人目標と達成度を記した表も貼られている。冬場は洗濯物を廊下に干して湿度を保つようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルで過ごす方、ソファでくつろぐ方など、好きなスタイルで過ごせる環境を整備している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の際は、今まで使用していた物を持ち込んでいただき、安心して過ごせる環境作りをしている。	居室には造り付けのクローゼットと棚があり、テレビやベッド、机、いす等自由に置いている。新しいものを買うのではなく、今まで使っていた馴染みの物を持ってきてもらい、安心して暮らせるよう支援している。以前は仏壇を置いていた方もいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の思うように動くことができ、1人でも安全に生活が送れる環境である。		